

開催日:令和8年3月1日(日)

東串良町複合施設建設計画 住民説明会資料

未来のまちのにぎわいを創る拠点づくり

東串良町

本資料での説明内容

1. なぜ複合施設が必要なのか
2. 住民の皆様の声を反映
3. 建設予定地の選定理由
4. 財源の考え方
5. 複合施設のコンセプトと機能
6. 今後のスケジュール
7. まとめ

1. なぜ複合施設が必要なのか

◆町の現状と課題

公共施設の老朽化

約70棟のうち約4割が旧耐震基準
(昭和56年以前)
今後、多額の改修・修繕費用が必要

人口減少・高齢化の進行

25年後には人口が約3割減少
高齢化率が15歳未満人口率の約3倍に

財政の厳しさ

税収の減少と社会保障費の増加
施設の維持・更新費用の確保が困難

今後、公共施設は、**量的な削減**を実現しつつ、**公共サービスの水準の維持・向上**を目指すことは求められる！
単体で運営されている施設を複合化することは、**事業費等の削減**につながるだけでなく、**利用者の使い勝手の向上**にもつながると期待できる！

統合する施設

◆3つの施設を複合化

施設名	建築年	主な課題
総合センター	1982年 (築44年)	雨漏り、地盤沈下、 洪水浸水想定区域内
高齢者福祉センター	1974年 (築52年)	旧耐震基準、爆裂、 バリアフリー不十分
国家石油備蓄基地記念館	1985年 (築41年)	老朽化

複合化のメリット

- 維持管理コストの削減
- 事業の効率化
- 町民の利便性向上
- 人が集まることによる町の活性化

2. 住民の皆様の声を反映

～各種住民参画機会の場を設置～

◆住民アンケートの実施(令和5年12月～令和6年1月)
「複合施設がどのような場所になったらよいか」

項目	割合
災害時の拠点・避難所となる場所	58.8%
多くの人が集まり、賑わいが生まれる場所	47.7%
人々の暮らしを便利にし、豊かにする場所	42.8%
イベントなどの活動に参加できる場所	42.6%

その他、既存施設の利用状況、複合施設のあり方や機能についての設問も。町内全世帯に向けて実施し、回答率は33.7%。

◆ワークショップの開催

小中学生から大人まで、多世代が参加し、「複合施設」について語り合う場。

【基本構想・基本計画策定時】

①第1回ワークショップ(令和6年6月30日開催)

・複合施設があるまちの未来をイメージして語り合う。

②第2回ワークショップ(令和6年7月21日開催)

・建設予定地の印象、複合施設でやりたいこと、必要なモノについて語り合う。

【基本設計段階】

①第1回ワークショップ(令和7年9月26日開催)

・複合施設の具体的な間取りや使い方について語り合う。

②第2回ワークショップ(令和7年12月18日開催)

・第1回の内容を踏まえて、反映可能な意見を取り入れて作成した施設の3Dモデルを使って完成後イメージを共有し、改めて意見を出し合う。

◆パブリックコメント(町民意見公募)の実施

計画案や概要を公表し、広く町民から意見を募集。

【基本構想・基本計画策定時】令和7年1月17日～令和7年2月16日

【基本設計段階】令和8年2月12日～令和8年3月13日

◆議会への説明

複合施設に係る調査特別委員会への出席・説明

- ①令和5年11月10日(スケジュール、検討委員会、計画策定支援業者や委託内容、住民アンケート内容の事前共有)
- ②令和6年2月2日(住民アンケート結果等の報告)
- ③令和6年8月23日(立地場所検討の流れ、事業の進捗状況、スケジュール変更等)
- ④令和6年12月16日(集約化する機能や施設目標面積、基本構想・基本計画案の提示)
- ⑤令和7年6月12日(基本設計等業務委託の内容、進捗状況、スケジュール)
- ⑥令和7年8月1日(基本設計等業務委託の優先交渉権者決定の経緯、日程等)
- ⑦令和7年12月11日(スケジュール、平面図案の提示、地質調査結果等)

3. 建設予定地の選定

◆「ルピノンの里」南側

所在地:池之原字新堀2415-1 他13筆
敷地面積:約19,328㎡

選定理由の3つの視点

① 防災面での安全性

南海トラフ巨大地震など災害リスクが低い

国道220号周辺は有事の際に早期復旧が見込める

② 交通の利便性

国道220号に近い立地

公共交通の結節点として機能

③ 買い物弱者対策

民間商業施設との連携利用が期待できる



4. 財源の考え方

◆総事業費：約50億円

◆事業費内訳

(※基本構想・基本計画策定時の想定費用。詳細設計や社会情勢により変動する可能性あり。)

項目	金額(税抜)	金額(税込)
調査費(地質、測量等)	0.12億円	0.13億円
土地整備費(盛土等)	4億円	4.4億円
建物整備費(外構整備含)	38億円	41.8億円
設計管理費	2.7億円	3億円
合計	44.8億円	49.3億円

◆財源の内訳(総事業費50億円の場合のシュミレーション)

財源の種類	金額	うち国等負担額	うち町負担額	備考
国等補助金	15億円	15億円	—	但し、総事業費の3割補助を想定した場合
地方債 (町借金) 過疎対策事業債等	35億円	24.5億円	10.5億円	元利償還金の7割が国から交付税措置されるものを活用した場合
合 計	50億円	39.5億円	10.5億円	町の実質的負担は全体の約21%

ポイント

- 過疎対策事業債の「公共施設マネジメント特別分」を活用。
- 元利償還金の7割が地方交付税に算入。
- 国の支援を最大限活用し、町の負担を最小限に。
- その他の財源として基金(特定事業に備えた貯金)の活用も想定できる。

5. 複合施設のコンセプトと機能

集う・活動する・守る！
使い続けよう、みんなの拠点施設

集う

あらゆる世代が集い、交流し、くつろぐ場所
イベントや日常的なにぎわいを創出

活動する

学ぶ、調べる、発信する多様な活動に対応
リモートワークなど新しい働き方にも対応

守る

災害対策の拠点として地域の安全・安心を支える
子育て支援など住民生活を守る

複合施設の主な機能

ホール(約400席)

- ・式典、イベント、講演会、発表会に対応
- ・移動観覧席で多目的利用が可能
- ・災害時は避難所として活用

図書・飲食スペース

- ・蔵書数約1万冊
- ・飲食スペース併設でゆったりと過ごせる空間
- ・ワーキングスペースで仕事や学習も

子育て支援

- ・子育て相談、情報発信
- ・屋内外の遊具スペース

その他の充実した機能

スタジオ・会議室：研修、講習会、各種講座

キッチン：料理教室、シェアキッチン、災害時の炊き出し

和室：華道・茶道、乳幼児連れの休憩スペース

練習室：楽器演奏、ダンス練習(防音対応)

展示スペース：文化財や町民作品の展示

屋外広場：イベント、休憩、子どもの遊び場

駐車場：200台以上

ユニバーサルデザイン
子どもから高齢者、障がい者まで、
誰もが快適に利用できる施設

6. 今後のスケジュール

年度	主な内容
令和 6年度(2024)	基本構想・基本計画
令和 7年度(2025)	基本設計、地質調査、敷地測量
令和 8年度(2026)	実施設計、造成及び道路拡幅設計、各種手続き
令和 9年度(2027)	開発工事、建築工事着工
令和10年度(2028)	建築工事
令和11年度(2029)	建築工事竣工、引越、オープン

★令和11年度中の開館を目標

※補助制度や土地・道路整備、資材納期等の状況により変動する可能性があります

7. まとめ～未来のまちのにぎわい創出～

◆産業とともに発展する拠点

- ・国道220号や物産館ルピノンの里との連携
- ・民間商業施設との相互利用
- ・交通結節点(モビリティハブ)として機能

◆住民の誇りとなる拠点

- ・自然豊かな環境を感じられる施設
- ・住民に親しまれ、使われ続ける施設
- ・ソフト事業の充実で住民満足度の向上

基本構想に示す8つの基本方針

あらゆる世代が集う・産業とともに発展・多様な活動に対応・災害対策の拠点
住民生活を支える・あらゆる人にやさしい・住民の誇り・経済的効率性

複合施設建設の3つのポイント

① 必要性

老朽化した公共施設を統合し、効率的で安全な施設を整備

② 財源

国等の補助金や有利な地方債を活用し、町の実質負担を抑制

③ 場所

防災面、交通面、生活利便性の観点から「ルピノンの里」南側を選定

★未来のまちづくりの拠点として

複合施設は、町民の皆様の利便性を高め、

将来のまちの方向性を具現化する重要な拠点となります。

ご質問・ご意見をお聞かせください。

皆様の声を大切にしながら、

より良い施設づくりを進めてまいります。